

研究計画書

ゼミ名	林亮輔ゼミⅡ	チーム名	Protect Humans
タイトル	インターネットリテラシー教育の在り方		
テーマ群	g)その他		
メンバー			
研究計画内容	<p>近年ソーシャルメディアの利用が増え、SNS（Social Networking Service）において、特定の個人・企業の行為・発言・書き込みに対して多数の批判や誹謗中傷が行われる「炎上」が増加している。その背景には、ソーシャルメディアの発達と利用者数の増大により、誰もが手軽に情報発信ができ、それらに対して批判することが容易になったことがある。今後さらなるソーシャルメディアの発達・普及が見込まれることから、SNSにおける炎上問題はこれまで以上に増加することが予想されるが、山口（2017）が述べているように、炎上には「炎上対象企業の株価下落やイメージの低下」、「炎上対象者の心理的負担の増加や社会生活」といった社会的悪影響が大きいことから、何らかの対策を講じることで炎上を抑制していかなければならない。</p> <p>総務省が行った「ICTの進化がもたらす社会へのインパクトに関する調査研究（平成26年）」によると、スマートフォンを所持している人のうち、インターネットリテラシー教育（情報の本質や偏りを身に着けるための教育）を受けたことがあると回答した人の割合が2割程度であることが明らかになった。SNSにおいて炎上問題が増加する背景の一つとして、山口（2015）はインターネットリテラシー教育の遅れを指摘していることから、SNSにおける炎上を抑制するためには、インターネットリテラシー教育を強化することが不可欠であると思われる。そこで本研究では、①現在のインターネットリテラシー教育の実情を把握し、②SNSにおいて発言を行う際の態度形成要因についてアンケート調査を行い分析することで、なぜ炎上問題が生じるのかを明らかにし、③炎上を抑制するためのあるべきインターネットリテラシー教育について考察する。</p>		